

答していた。

8) ウェブページの有用性～参考になったか

乳がん患者では「同ウェブページが参考になった」と答えたのは「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせて93.7% (104人)。前立腺がん患者では93.3% (56人) だった。(図12、13)

相談員では「同ウェブページは患者が見て参考になると思うか」との質問に対して、参考になると答えたのは96.5% (168人) であった。(図14)

また、相談員には、「がん相談員として相談業務を行う上で、同ウェブページは参考となるか」と尋ねた。91.3% (159人) が、参考になると答えた。(図15)

9) 患者にウェブページをすすめるかどうか

ほかの患者にもウェブページをすすめたいかどうかについて尋ねた。「すすめたい」と答えた乳がん患者は85.4% (94人)、前立腺がん患者は93.4% (56人) だった。「すすめない」とした乳がん患者は2.7% (3人)、前立腺がん患者は0人だった。「わからない」と答えた乳がん患者は11.8% (13人)、前立腺がん患者は5% (3人) だった。

(図16、17)

また、相談員では「患者にウェブページをすすめたいか」と質問した。「すすめたい」と答えたのは76.8% (132人)、「すすめない」4.7% (8人)、「わからない」18.6% (32人) だった。

(図18)

10) 患者にサイトをすすめるか～理由の自由記述の分析 (表4)

4-5で「患者にウェブページをすすめるか」と尋ねた際、乳がん患者、前立腺がん患者、相談員それぞれに、その理由を自由記述で求めた。

乳がん患者は74人が回答し、すすめる事を促進または抑制する要因として、概念10個が抽出された。前立腺がん患者は32人が回答し、概念9個が

抽出された。相談員は119人が回答し、概念11個が抽出された。

乳がん、前立腺がん患者に共通した概念は7個だった。また、乳がん、前立腺がん、相談員の3者に共通して見られた項目は5概念あった。具体的には以下に述べる。

<乳がん、前立腺がん患者：他の患者にすすめる際の促進・抑制要因>

乳がん、前立腺がん患者共通の促進要因としては、【同病者の肉声が聞ける】【同病者を知ることによって得られる効果】【ウェブ・動画の利便性】【情報源となる】があった。

共通の抑制要因では【患者のキャパシティ】があり、身心のキャパシティが少ないと判断した患者には混乱や悪影響が出る懸念からすすめる事を控え、理解力がありそうな患者にはすすめたいと考えていた。【同病者と交流がない】は「自分のがんを公表していないので他の患者とも交流がない」などの理由で他患者にページを紹介する機会がない、という内容であった。

<相談員：他の患者にすすめる際の促進・抑制要因>

相談員では、促進要因としては、乳がん、前立腺がん患者共通の概念として【同病者の肉声が聞ける】【同病者を知ることによって得られる効果】【ウェブ・動画の利便性】【情報源となる】があった。また、相談員独自の概念では、【患者からの要望】があり、患者が希望していれば紹介するが、自分からは紹介しにくい等の意見がみられた。

抑制要因では、乳がん、前立腺がん患者と同様に【患者のキャパシティ】があげられ、身心のキャパシティが少ないと判断した患者には混乱や悪影響が出る懸念からすすめる事を控え、理解力がありそうな患者にはすすめたいと考えていた。

相談員のみにもみられた抑制要因では【高齢者のパソコン使用の困難性】【情報量の多さによる混乱】があり、高齢者ではパソコン使用が困難であり、紹介しても使いこなせないと考えられていた。

また、ウェブページの情報が多いため患者に混乱を生じさせることを懸念していた。【施設・相談員側の事情】では、「公的病院であるため実際には公的な専門機関が作成する情報以外は照会できないため」など、サイト内容よりも相談センター側の方針やパソコン、インターネット等の設備状況、相談員の対応の限界と患者体験情報への認識の低さが、抑制要因となっていた。

11) 異なる病気の語りを見たことがあるか(乳がん、前立腺がん患者のみ対象) (表5、6)

乳がんの患者には「前立腺がんの語り」を見たことがあるか、前立腺がんの患者には「乳がんの語り」を見たことがあるかと尋ねた。

乳がん患者では9.1% (10人) が「ある」と答え、うち50% (5人) が「役立つ情報があった」と回答した。自由記述回答で具体的に参考になった内容を求めたところ、「重粒子線を受けた人が実際にいるという事実」「心境とか心構え」「治療の選択の仕方」などの意見が寄せられた。

前立腺がん患者では20.7% (12人) が「ある」と答え、うち75% (9人) が「役立つ情報があった」と回答した。自由記述回答で具体的に参考になった内容を求めたところ、「乳がんと転移の箇所が似ているホルモン療法副作用など」「ホルモン療法の共通点」など、ホルモン療法に関する意見が複数みられた。

12) ウェブページ上の体験談を見た形式(表7)

ウェブページ上の体験談を、文章と映像など主に何で見たか、見た形式を尋ねた。乳がん患者、前立腺がん患者では「映像と文章の両方を使った」が最も多く、「主に文章」が続いた。相談員では「主に文章」が最も多かった。

13) ウェブページ上の「必ずお読みください 体験談の語りの監修について」を読んだか(表8)

乳がん患者、前立腺がん患者、相談員の8割が、

ウェブページ上の注意点等を記した「体験談の語りの監修について」を読んでいた。

14) ウェブページ上の「キーワード検索」があるのを知っていたか(※乳がん患者、相談員のみ回答) (表9)

「乳がんの語り」ウェブページ上に「キーワード検索」がある。どれだけ認知されているかを調査した。乳がん患者の6割が認知していた。相談員では5割が認知していた。

15) ウェブページ上の「情報リンク」を知っていたか(表10)

乳がん患者、前立腺がん患者、相談員の6割が認知していた。

16) 使い勝手と構成についての意見(自由記述)(表11)

ウェブページの使い勝手と構成についての意見を自由記述回答で求めた。乳がん患者42人、前立腺がん患者24人、相談員43人が回答した。

分析の結果、3者共通にみられた概念に【良い点】【内容への意見】【操作への意見】があった。【良い点】としては「語っている人の状況ごとに細かなリンクが設定されているので自分の知りたい語りの部分にアクセスしやすい」「キーワード検索できるのがよいと思います」などの意見があった。課題としては【文章が読みづらい】【情報が探しにくい】などがあり、具体的には「語りをそのまま文章にしているのが読みづらい」「もう少し大きな字にしてほしい」「情報が多すぎてどこを見るのか不明」との意見が複数みられた。また操作に関して「もう少しテーマの検索機能が向上したらいいと思う」「自動的に音声流れるのはやめた方がいいと思う。文章だけの方が良い場合があった」などの意見があった。

17) ウェブページ全体の感想・意見

自由記述で尋ねた。乳がん患者56人、前立腺がん患者31人、相談員39人の回答が得られた。大半が、体験談のもたらす前向きな効用やウェブページを好意的に評価する意見が多かった。少数ではあるが、語りを聞くことでの恐れや不安などの懸念の意見もあった。

概念【体験談を見ることでの不安】では、具体的には「同じ乳がん患者の話から自分自身もっと早く検診に行くべきだったと反省した」(No. 33乳)、「再発・転移のことや他の薬の副作用のことを読むと正直怖くなるが、今後の心構えをするにはとても参考になると思った」(No. 67乳)などの意見がみられた。乳がん患者から抽出された概念【リアルさが感じられないことに不満】では、「もっと本音で語れる人を選ぶべきだと思う」(No. 23乳)、「無機質な感じ。あくまでも患者をガラスケースに入れた外側から見ている感じ。『作ってやった』的印象」(No. 5乳)などがあつた。また、【体験者のその後が気になる】【自分と他の患者との比較】など患者ならではの概念も抽出された。

相談員から抽出された概念でも語りを評価するものが多く、【がん種拡大の期待】では他のがんの語りも増やしてほしいとの意見だった。一方で【患者への影響の心配】との概念も抽出された。(表9)

D. 考察

1-1. ウェブページの認知、有用性

今回調査に参加した患者と相談員の約6割が同サイトを見た経験があつた。これはウェブページを運営するNPO法人が、ウェブページ公開時に案内資料をがん相談センターや今回アンケートの周知協力を依頼した患者会等に送付していたためと考えられる。回答者の9割が「患者が見て参考になる」、相談員の9割が「相談業務を行う上

で参考になる」としており、同ウェブページは患者、医療者にとって、患者の生活や思いを幅広くカバーする信頼できるものと認識されていると考えられる。また、患者調査から、広告を付けず医療者のチェックを経て体験談を掲載するウェブページ運用の姿勢が、ブログなどの一般的な患者発信サイトと比べて利用者により「信頼できる」ものと認識されていることが考えられた。

患者、相談員は「同ウェブページは患者にとって参考になる」と評価していても、実際に患者に同サイトを紹介するかどうかについては、一部に慎重に考える傾向がみられた。ウェブページを患者にすすめる際の抑制要因で3者に共通してみられたものは【患者のキャパシティ】が多く、体験談を見た患者への悪影響を懸念して紹介の際は慎重になる傾向が強かった。全体の感想でも、患者、相談員の多くが患者体験談の心理的なプラス効果に言及する一方、数は少ないながら【体験談を見ることでの不安】(乳がん患者)、【患者への影響の心配】(相談員)とマイナス面の影響も感じていた。特に、乳がん患者では、体験談に自分の状況を重ね合わせる傾向もみられ、一部回答者には、体験談が掲載時に他者に編集されることへの戸惑いや反感もみられた。サイトの管理者は、患者体験情報の与えるこういった一面も考慮しながら、サイト構築を進めていく必要もある。

また、同サイトは患者だけでなく、家族や医療者が見ても参考になると評価されていた。患者家族の語りや、卵巣がんやすい臓がんなどの体験談の構築を望む声もあつた。サイトの定期的な更新と共に、患者家族の語りやがん種の拡大なども検討すべき課題と考えられる。

相談員からは【患者からの要望】がなければ積極的に情報提供しないとの姿勢や、高齢者はパソコン使用が困難なためサイトの紹介は出来ないと認識が持たれていた。患者への情報提供には慎重で、患者の要望を受ければ情報提供を行うと

というような姿勢がうかがえた。また、【施設・相談員側の事情】として、施設側の方針やネット環境の乏しさにより、同ウェブページを含む患者体験情報の提供が制限されている相談センターもあった。患者体験情報の活用についても、「積極的に活用したい」と回答する施設があれば、「公的病院のため公的機関が作成する情報のみ提供する」とする施設があるなど、各相談センターの運営姿勢や相談員によって対応が異なる現状がうかがえた。今後は、相談センターのネット環境整備や、ネットが使えない患者への情報提供体制の構築も社会的課題であろう。

1-2. 操作性

ウェブページ体験談は動画で見られるが、回答者の多くが語りを起こした文章（テキスト）を読んでいた。このため、改善点と要望としては「文章が読みづらい」「字を大きくしてほしい」との意見が多く寄せられた。文字を大きく見やすくするなど、文章を読みやすくする工夫も今後の重要な課題の一つと考えられる。

2. 本研究の限界と今後の課題

乳がん患者調査では特定の患者会等を通して参加を呼びかけた。患者会に所属する人は体験談に好意的であることが考えられることから、他の乳がん患者への一般化は慎重にすべきである。

今回の調査では、調査対象者に対し、質問紙回答にあたっての見るべきサイト項目数や時間等を指定していない。このため、各回答者がどの程度サイトを見て評価をしたかは不明である。

また、がん患者、相談員ともに回答者数が十分ではなく、回答者もサイトに比較的好意的な人が回答していることも考えられる。属性とのクロス集計でも特徴的な結論を明示できなかった。以上いくつかの課題はあるが、本調査では、今後増えると予測される患者体験談の動画サイトの構築に向けた視点を提示した。

E. 結論

「乳がんの語り」「前立腺がんの語り」は、乳がん・前立腺がん患者とがん相談員に、患者が病気の体験情報が得られて前向きな効果が得られる、参考になるサイトであると認識されていた。一方、患者によっては体験談を見ることで不安を感じる人もいることも示唆された。

また、操作性に関しては文字の拡大などの改善点が求められることがわかった。

F. 健康危険情報

研究の結果、得られた成果の中で国民の生命、健康に重大な影響を及ぼすと考えられるような事象は見出されなかった。

G. 研究発表

(論文発表)

なし。

(学会発表)

1. 細川貴代、別府宏圀、中山健夫. 第70回日本公衆衛生学会総会. 「健康と病いの語り」に対するがん相談支援センター相談員の有用性・操作性評価. 秋田県、2011年10月20日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

<謝辞>

調査にご協力を頂いた患者の皆様、がん相談員の皆様、高橋由光様（京都大大学院医学研究科）、宮崎貴久子様（同）、市川佳世子様（同）に心より感謝申し上げます。

表 1 調査対象者の概要 (乳がん患者、前立腺がん患者)

乳がん体験者 ＜人数:111人＞				前立腺がん体験者 ＜人数:60人＞			
		人数	%			人数	%
性別	女性	110	(99.1)				
	男性	1	(0.9)				
年齢				年齢			
	30代	10	(9)	50歳未満	1	(1.7)	
	40代	60	(54.1)	50代	11	(18.3)	
	50代	26	(23.4)	60代	31	(51.7)	
	60代	14	(12.6)	70代	13	(21.7)	
	70代	1	(0.9)	80歳以上	4	(6.7)	
	80歳以上	0	(0)				
職業	正社員	31	(27.9)	職業	正社員	10	(16.7)
	派遣、アルバイト、パート	24	(21.6)		派遣、アルバイト、パート	4	(6.7)
	会社役員	4	(3.6)		会社役員	5	(8.3)
	自営業	10	(9)		自営業	4	(6.7)
	専業主婦	24	(21.6)		無職	30	(50)
	学生	2	(1.8)		その他	3	(5)
	無職	10	(9)		回答なし	4	(6.7)
	その他	6	(5.4)				
診断から経過している年数	6カ月未満	11	(9.9)	診断から経過している年数	6カ月未満	5	(8.3)
	6カ月以上～1年未満	20	(18)		6カ月以上～1年未満	7	(11.7)
	1年以上～3年未満	41	(36.9)		1年以上～3年未満	21	(35)
	3年以上～5年未満	13	(11.7)		3年以上～5年未満	0	(0)
	5年以上～10年未満	19	(17.1)		5年以上～10年未満	23	(38.3)
	10年以上	7	(6.3)		10年以上	4	(6.7)
再発・転移の有無	あり	17	(15.5)	再発・転移の有無	あり	18	(33.3)

表 2 調査対象者の概要（がん相談員、回収率 46.1%）

がん相談員 ＜人数:174人＞			
		人数	%
性別			
	男性	22	(12.6)
	女性	151	(86.8)
	回答なし	1	(0.6)
年齢			
	20代	15	(8.7)
	30代	51	(29.5)
	40代	52	(30.1)
	50代	41	(23.7)
	60歳以上	14	(8.1)
	回答なし	1	(0.6)
勤務形態			
	専従	116	(67.8)
	専任	40	(23.4)
	兼任	15	(8.8)
	回答なし	3	(1.7)
職種			
	医師	0	(0)
	看護師	96	(55.2)
	福祉職	61	(35.1)
	心理職	3	(1.7)
	事務職	13	(7.5)
	その他	1	(0.6)
職種経験年数			
	10年未満	91	(52.6)
	10～20年未満	32	(18.4)
	20～30年未満	28	(16.1)
	30年以上	22	(12.7)

図 1 乳がん患者：ウェブページを知ったきっかけ

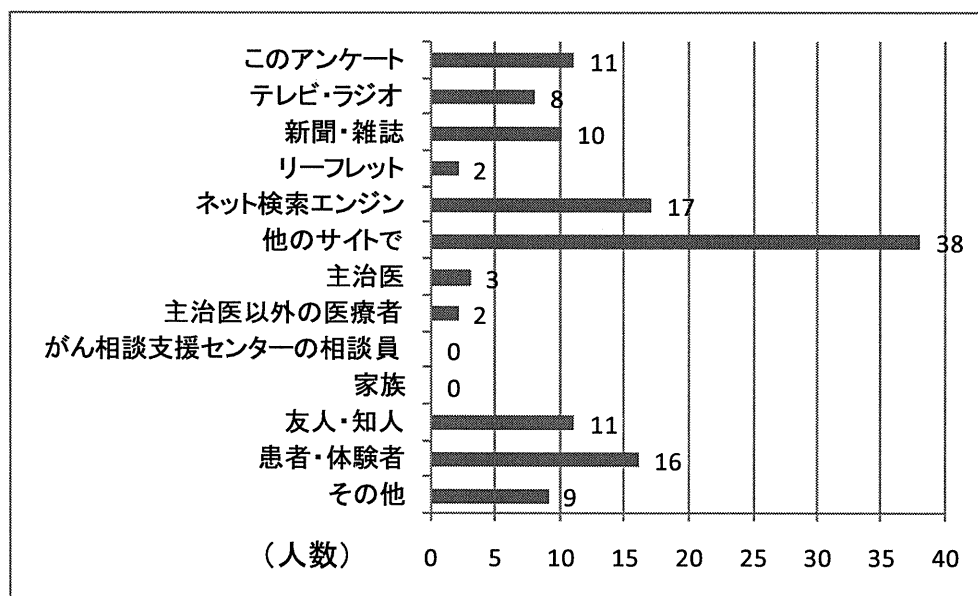


図 2 前立腺がん患者：ウェブページを知ったきっかけ

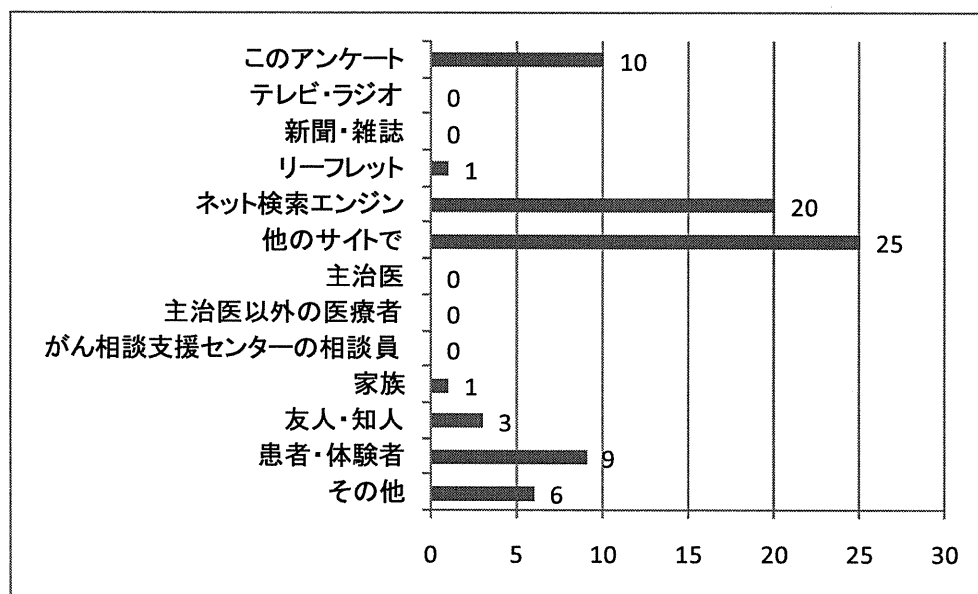


表 3 これまでにウェブページを見た回数

対象者	今回初	一度だけ	2~9回	10回以上
<乳がん患者>(n=110)	41 (37.3%)	12 (10.9%)	41 (37.3%)	16 (14.5%)
<前立腺がん患者>(n=59)	29 (49.2%)	7 (11.9%)	17 (28.8%)	6 (10.2%)
<相談員>(n=173)	75 (43.4%)	50 (28.9%)	48 (27.7%)	0 (0%)

図 3 乳がん患者：ウェブページを見た時の目的

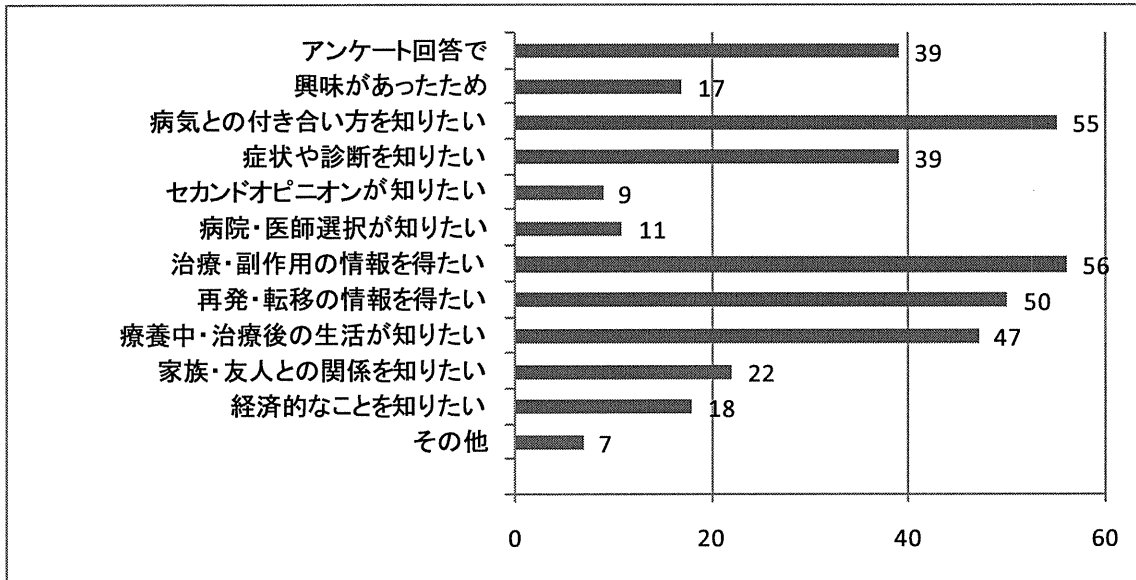


図 4 前立腺がん患者；ウェブページを見た時の目的

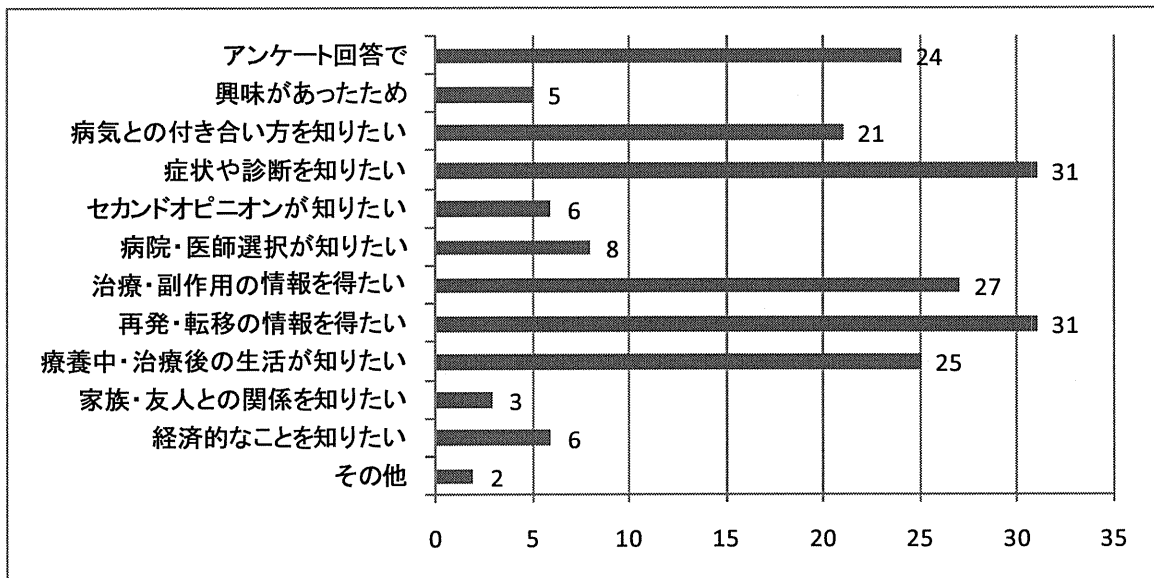


図 5 乳がん患者：ウェブページを見た時期

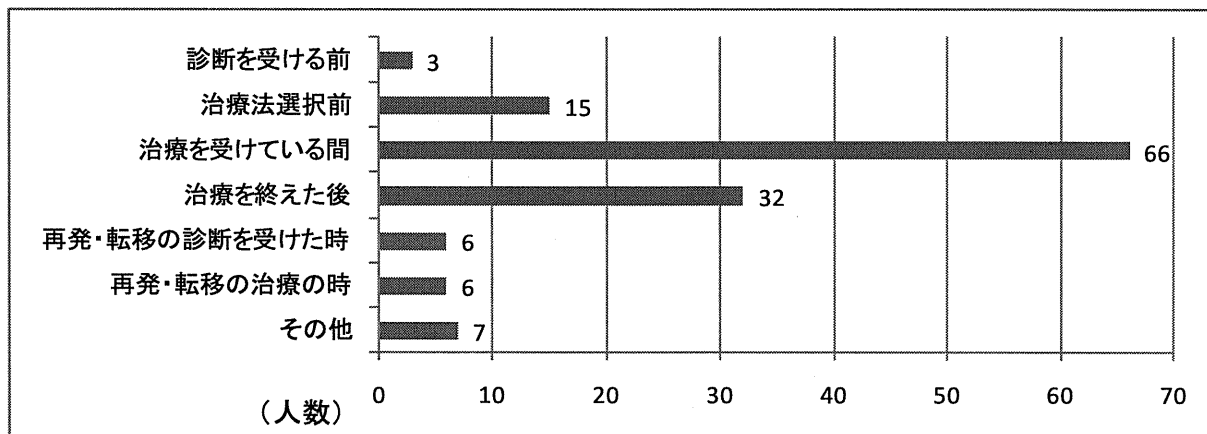


図 6 前立腺がん患者：ウェブページを見た時期

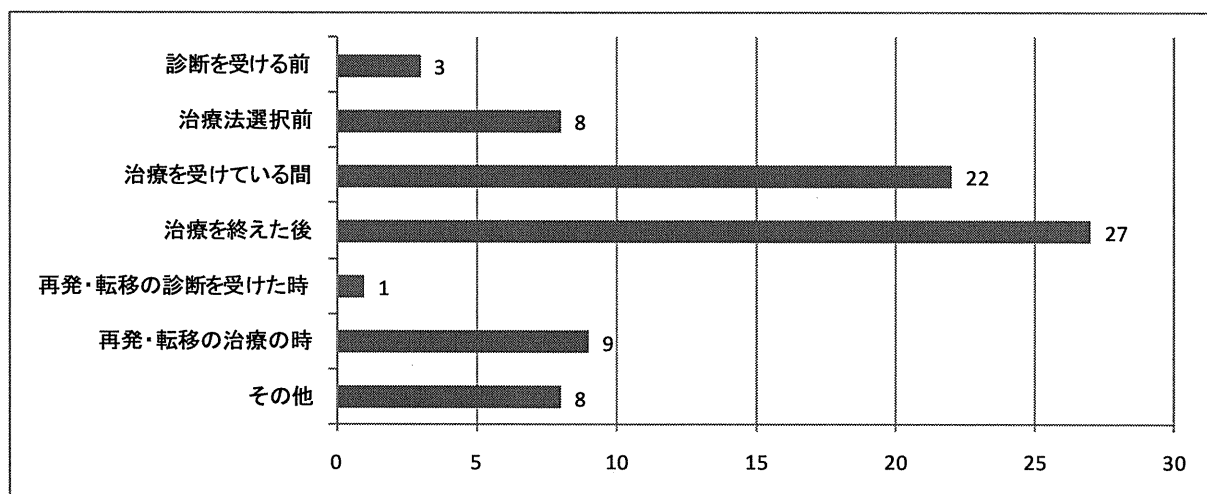


図 7 乳がん患者：見て参考になった項目

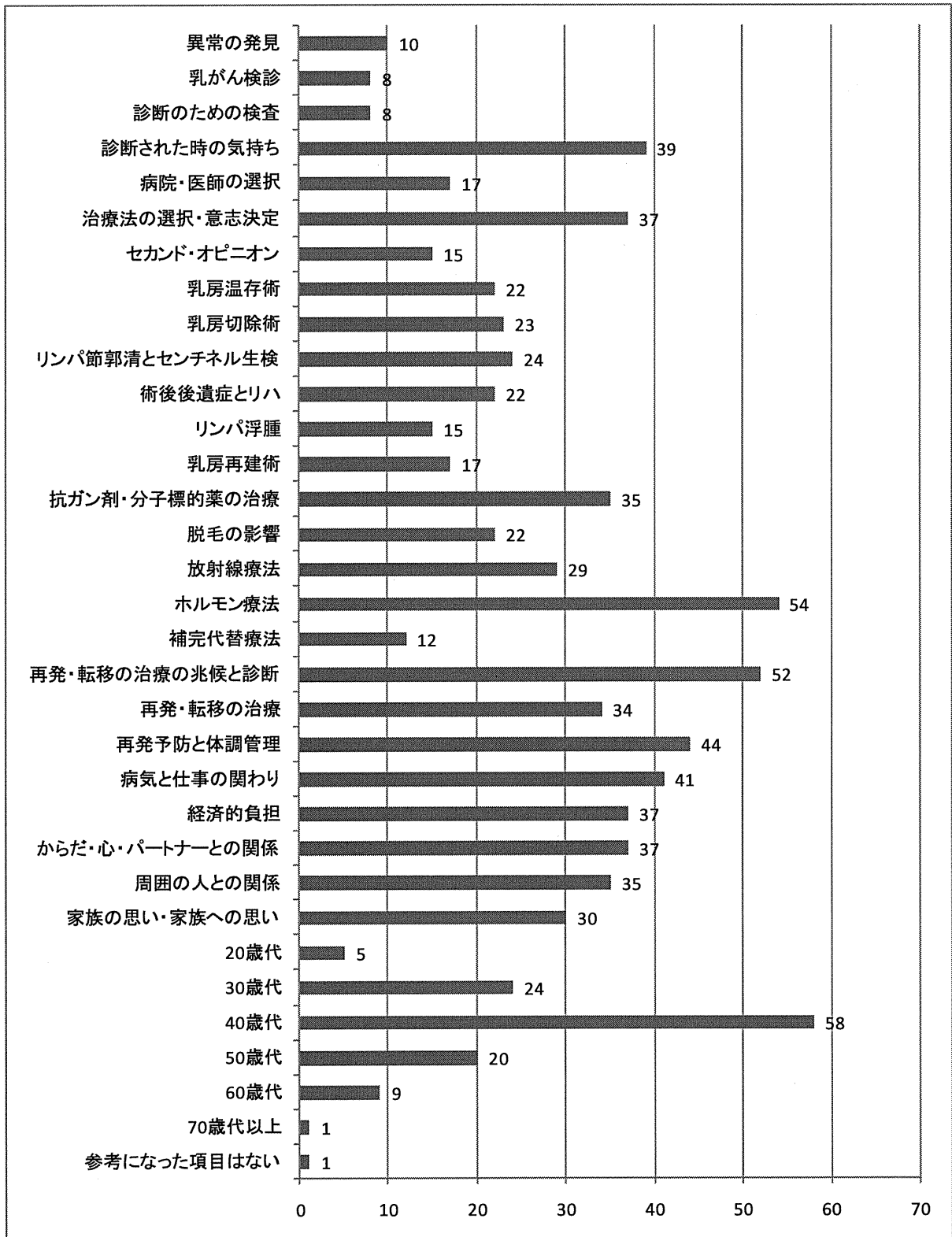


図 8 前立腺がん：見て参考になった項目

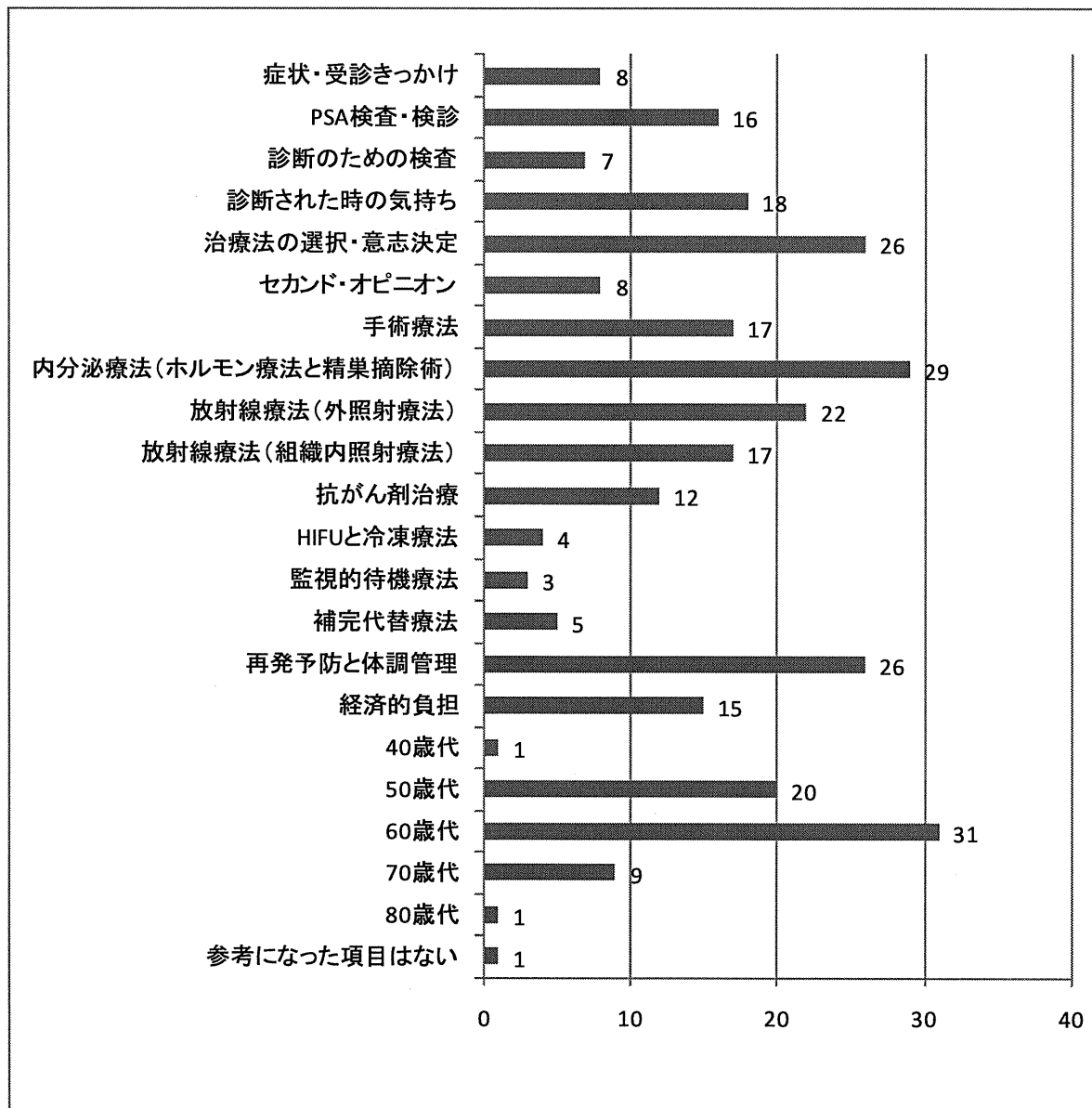


図 9 乳がん患者：ウェブページの認識

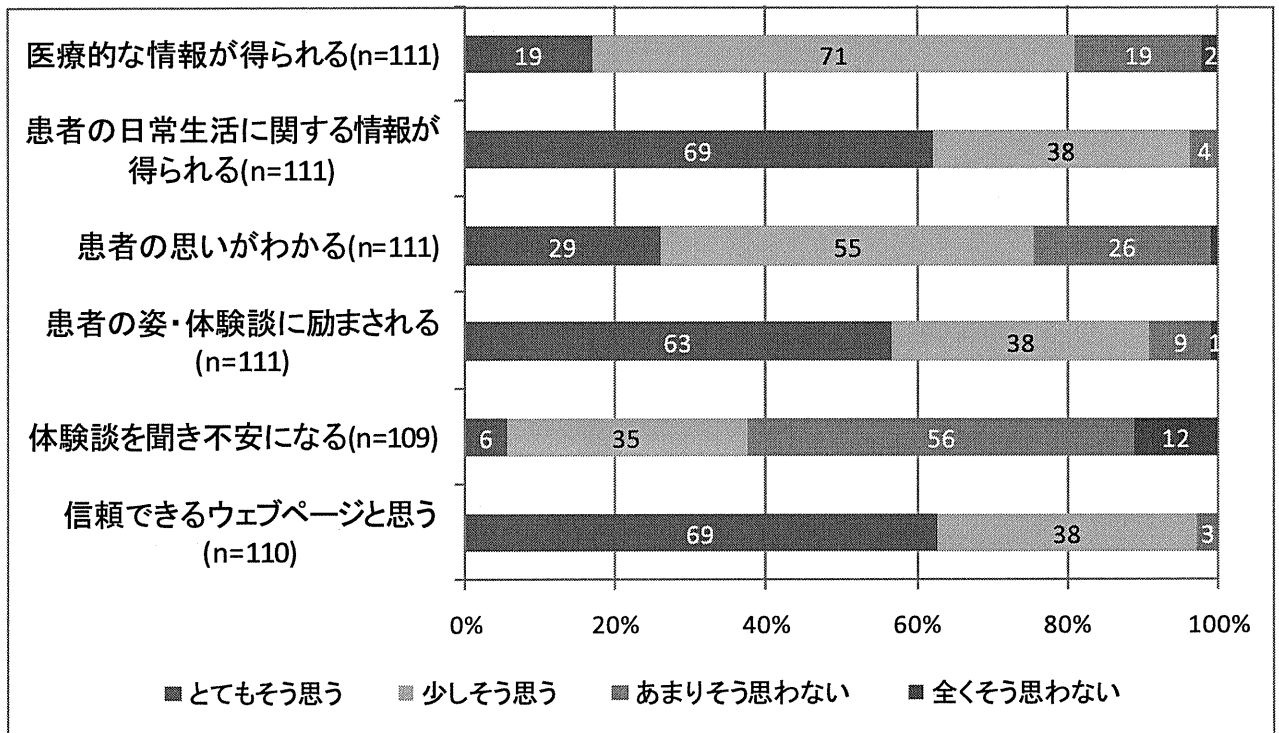


図 10 前立腺がん患者：ウェブページの認識

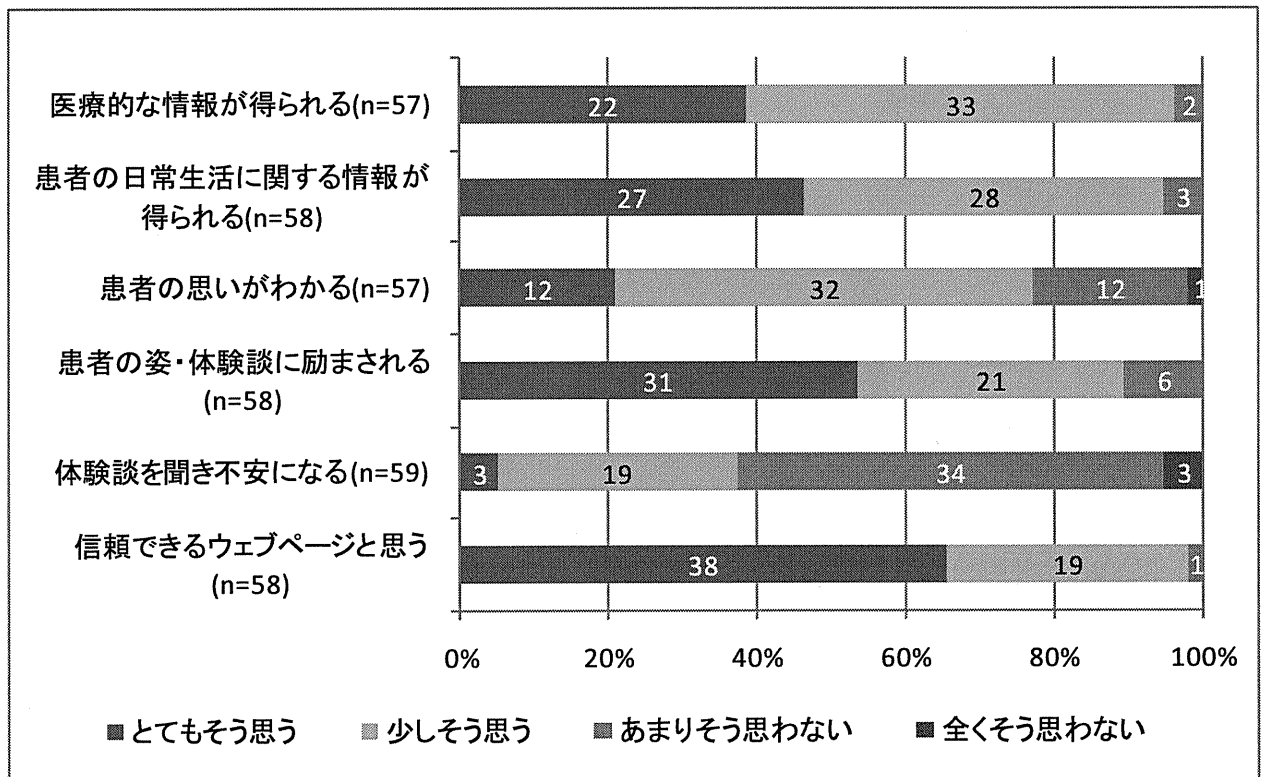


図 11 相談員：ウェブページの認識

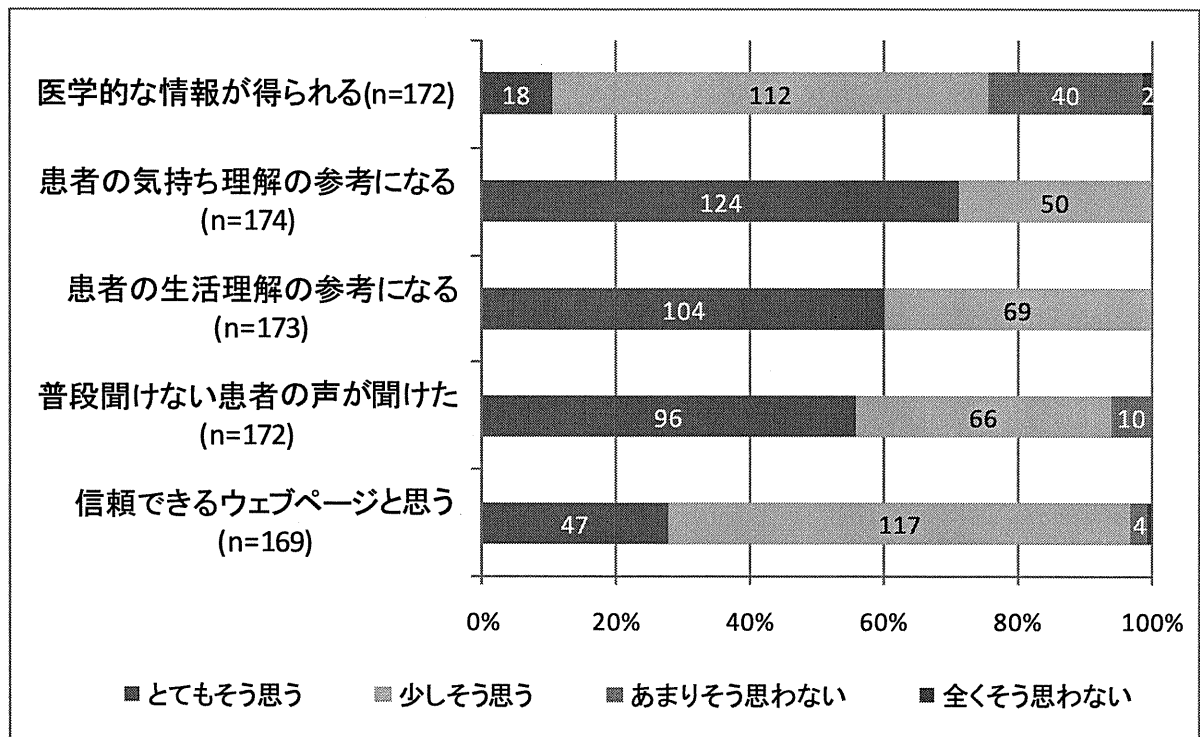


図 12 乳がん患者：ウェブページは参考になったか (n=111)

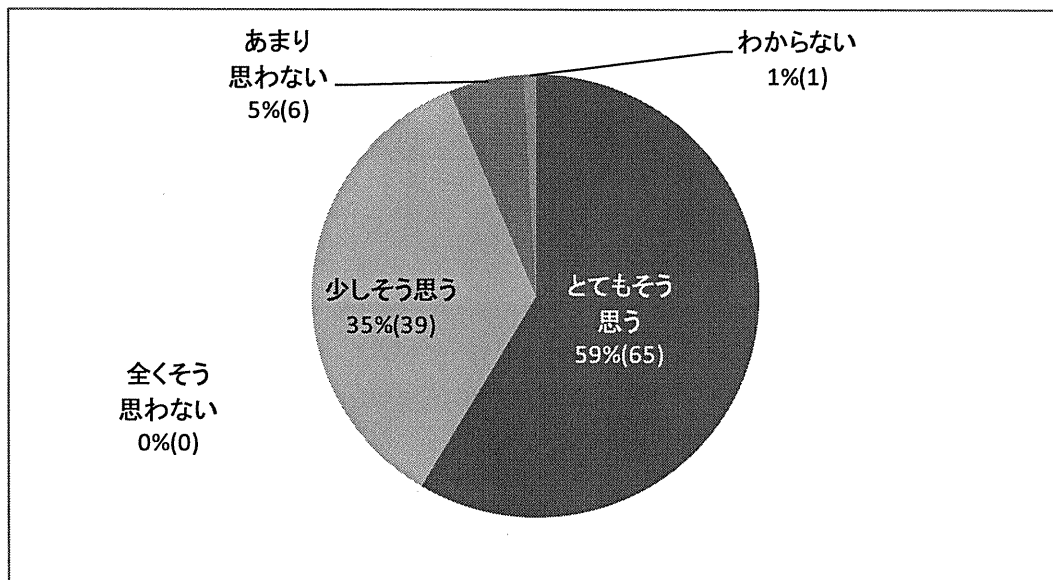


図 13 前立腺がん患者：ウェブページは参考になったか(n=60)

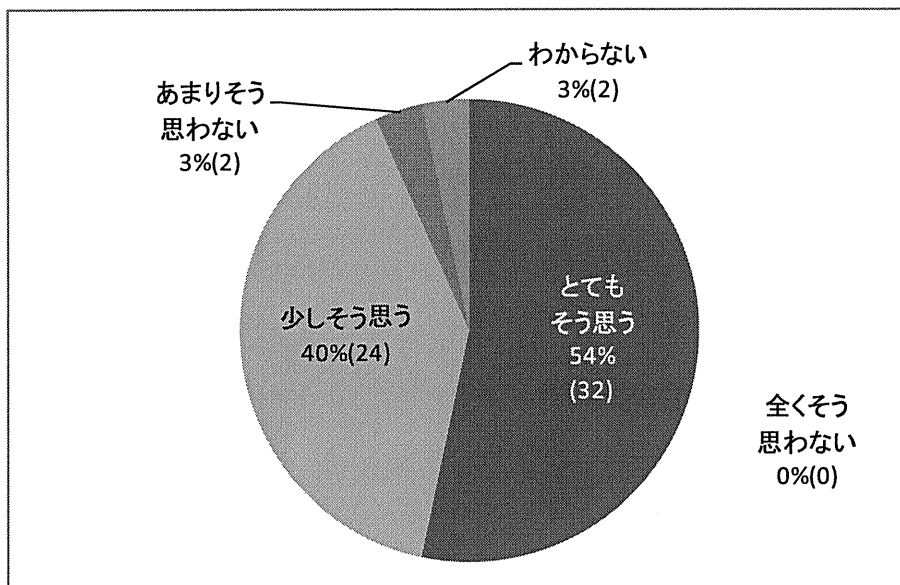


図 14 相談員：ウェブページは患者が見て参考になると思うか(n=174)

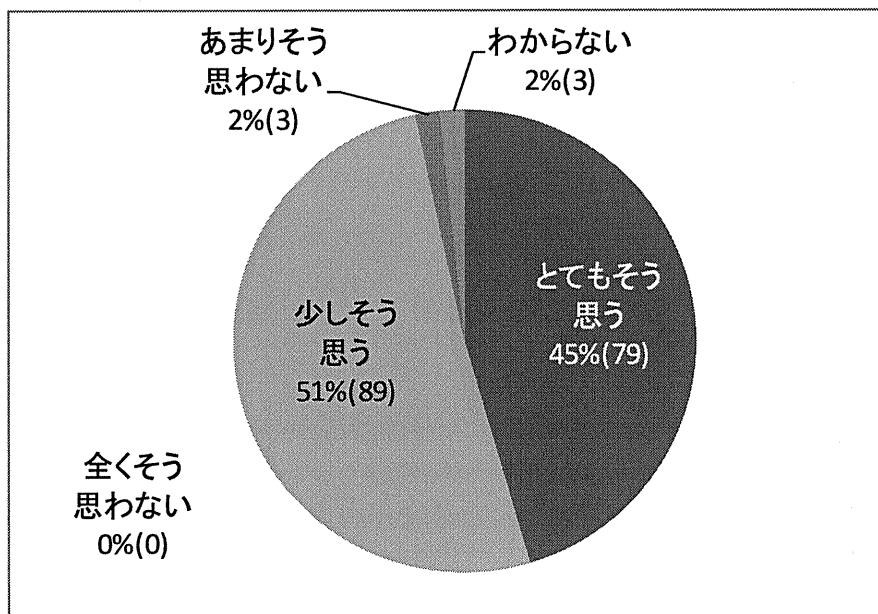


図 15 相談員：相談業務を行う上で同ウェブページは参考になるか(n=174)

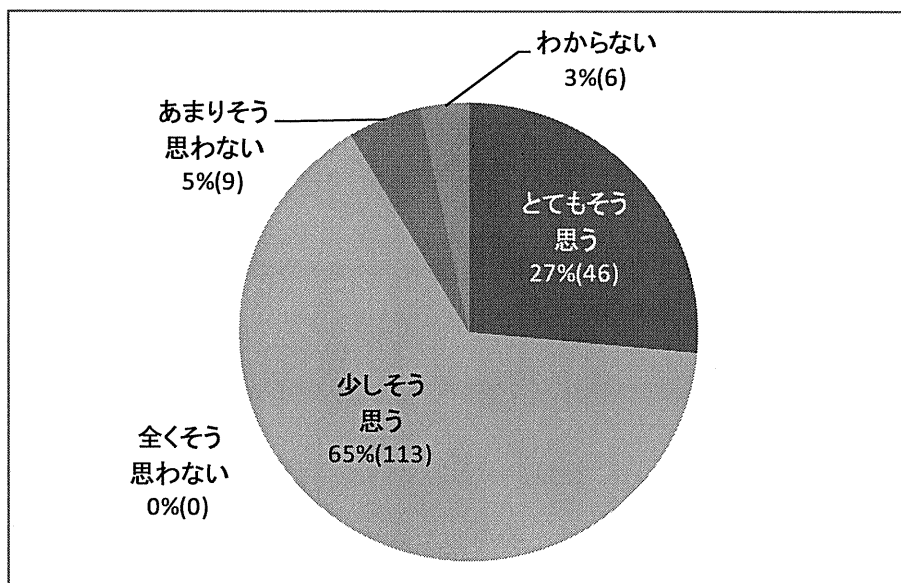


図 16 乳がん患者：自分以外の患者にウェブページをすすめたいか(n=110)

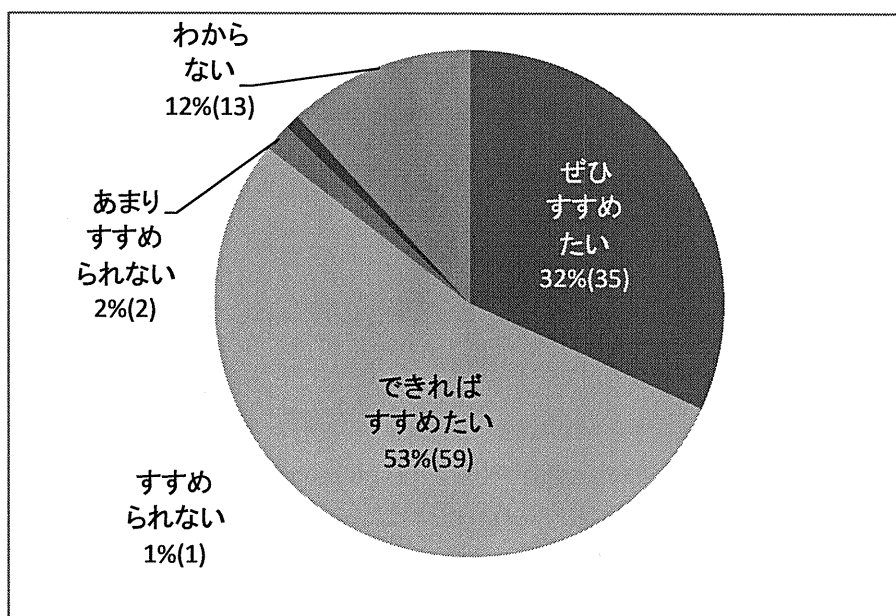


図 17 前立腺がん患者：自分以外の患者にウェブページをすすめたいか(n=59)

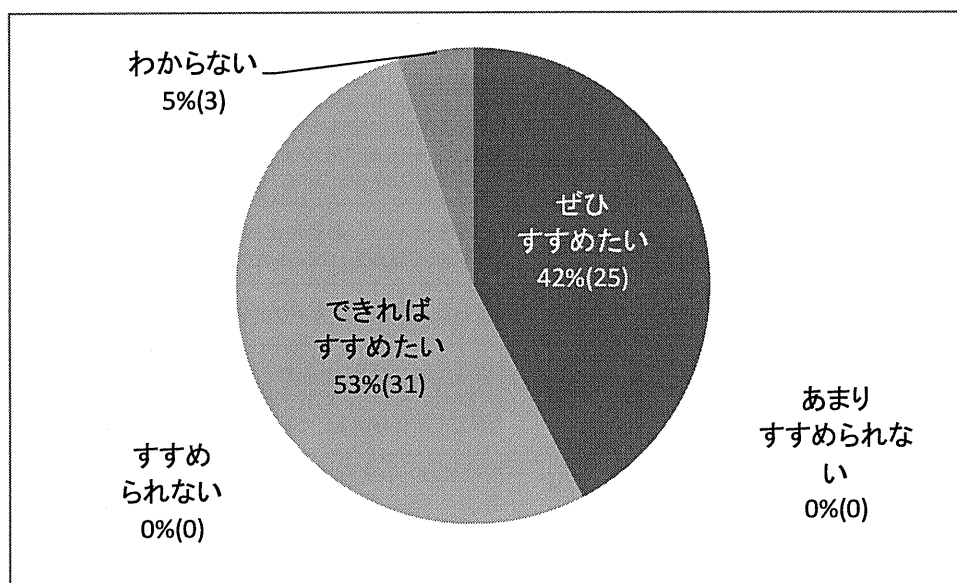


図 18 相談員：患者にウェブページをすすめたいか(n=172)

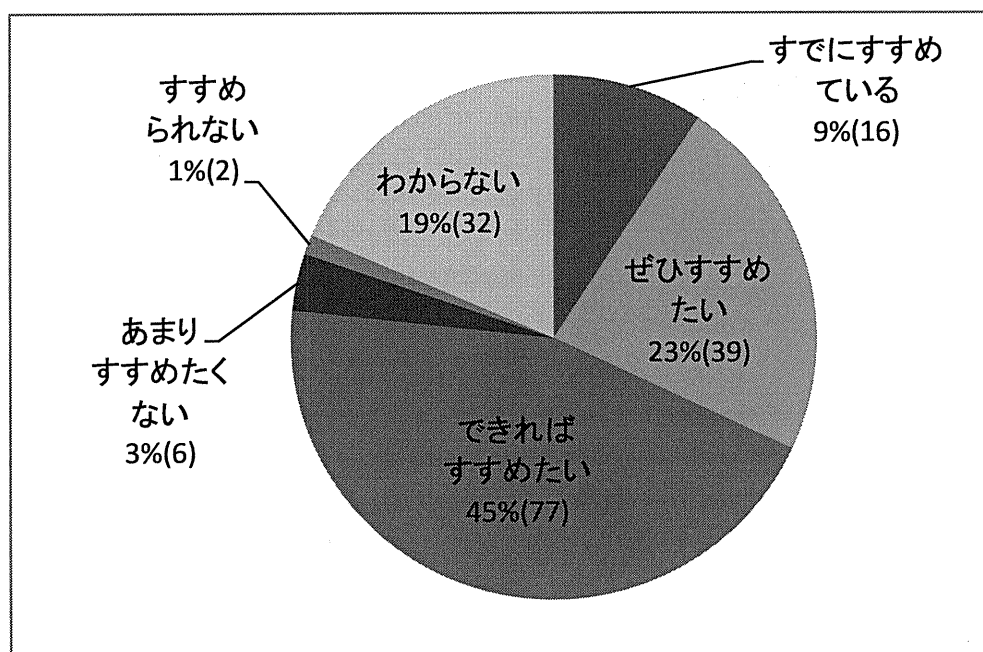


表 4

患者に同サイトをすすめるか～すすめる際に影響する要因			
分類	概念名	要因	具体例(患=乳がん患者、前=前立腺がん患者、相=相談員を表す)
・乳がん患者 ・前立腺がん患者 ・がん相談員 3者共通概念	【患者のキャパシティ】	促進 抑制	「乳がんと診断をされて、それを受け入れる側の気持ちが千差万別、十人十色なので、自分がいいと思っても、気軽にすすめられるものではない」(No.5乳)
	【同病者を知ることで得られる効果】	促進	「同じ患者として、必要以上に不安にならなくてもいいんだ、と励まされる気持ち」(No.55乳)
	【同病者の肉声が聞ける】	促進	「実際に体験された方々の生の声が聞けるから」(No.13乳)
	【ウェブ・動画の利便性】	促進	「集会に参加しようにも体調がすぐれなかったり、仕事や育児に追われては参加できない。そんな中で生の声を聴くことができる仕組みとして優れている」(No.52乳)
	【情報源となる】	促進	「いろんなケースを知ることで参考にしてもらえればと思います」(No.96)
その他の 乳がん患者の 概念	【体験談が情報として参考になる】	促進	「色々な人の体験談が聞いて参考になるので」(No.42)
	【患者以外に見てほしい】	促進 抑制	「患者よりもむしろ知りあいや友人、家族に見てほしい気がします」(No82.)
	【同病他者と交流がない】	抑制	「他のがん患者の知り合いがないため実感なし」(No.61)
	【パソコン・ネットに馴染みがない】	抑制	「年齢が高い人はパソコンの使い方がわからないみたい」(No.84)
	【内容への疑問】	抑制	「きれいごとを並べてある感じがする。ブログで包み隠さず書いてある方がよっぽど為になる」(No.23患)、「同病者の興味で知るだけ。これならブログやtwitterでも十分で、深くはないけどリアルタイムだったりする」(No.71乳)
その他の 前立腺がん患者の 概念	【サイトへの信頼】	促進	「中立な立場だから」(No.7)、「信頼感があるから」(No.14)
	【操作性への注文】	抑制	「量が多い。関係しそうな項目を拾い読みしても相当時間がかかる」(No.25)
	【体験談が情報として参考になる】	促進	「エビデンスのある情報は他でも得られるが、生身の情報は得がたい」(No.2)
	【同病者と交流がない】	抑制	「まだ、自分のこと公表していないから」(No.10)
その他の がん相談員の 概念	【患者からの要望】	促進	「患者さんが希望していれば紹介するがこちらから積極的に紹介しないと思う」(No.109相)
	【高齢者のパソコン使用の困難性】	抑制	「高齢の患者さんはパソコンを操作できない方もいるので全ての人にすすめられないと思う」(No.71相)
	【情報量の多さによる混乱】	抑制	「情報量が多いため患者によっては混乱を起こすことも考えられる。そのために相談員としては、患者の状況を確認して選別してすすめていきたい」(No3.相)
	【施設・相談員側の事情】	抑制	「公的病院であるため実際には公的な専門機関が作成する情報以外は照会できないため」(No.86相)
	【パソコン・ネットに馴染みがない】	抑制	「ウェブページを使いこなせる人が条件である」(No.171相)
	【内容への疑問】	抑制	「内容が不十分」(No.55相)

表 5 異なる病気の語りを見たことがあるか

(乳がん患者なら「前立腺がんの語り」を、前立腺がん患者なら「乳がんの語り」を見たことがあるか)

	ある	ない
<乳がん患者>(n=110)	10(9.1%)	100(90.9%)
<前立腺がん>(n=58)	12(20.7%)	46(79.3%)

表 6 役立つ情報はあったか

	あった	なかった
<乳がん患者>(n=10)	5(50%)	5(50%)
<前立腺がん患者>(n=12)	9(75%)	3(25%)

表 7 体験談を見た形式

対象者	映像と文章	主に映像	主に文章
<乳がん>(n=110)	61(55.5%)	8(7.3%)	41(37.3%)
<前立腺がん>(n=58)	33(56.9%)	4(6.9%)	21(36.2%)
<相談員>(n=171)	74(43.3%)	12(7%)	85(49.7%)

表 8 「語りの監修について」を読んだか

対象者	読んだ	読まない
<乳がん>(n=110)	83(75.5%)	27(24.5%)
<前立腺がん>(n=58)	48(82.8%)	10(17.2%)
<相談員>(n=171)	129(75.4%)	42(24.6%)

表 9 「キーワード検索」があるのを知っていたか

対象者	使ったことがある	知っていたが使ったことはない	知らなかった
<乳がん>(n=107)	33(30.8%)	33(30.8%)	41(38.3%)
<相談員>(n=173)	26(15%)	69(39.9%)	78(45.1%)

表 10 「情報リンク」を知っていたか

対象者	使ったことがある	知っていたが 使ったことはない	知らなかった
<乳がん>(n=109)	21(19.3%)	44(40.4%)	44(40.4%)
<前立腺がん>(n=59)	16(27.1%)	24(40.7%)	19(32.2%)
<相談員>(n=173)	17(9.8%)	77(44.5%)	79(45.7%)

表 11 ウェブページの使い勝手と構成についての意見

分類	概念名	
・乳がん患者 ・前立腺がん患者 ・相談員 3者共通の概念	【良い点】	「状況ごとに細かくリンクが設定されているので、自分の知りたい語りの部分にアクセスしやすい」(No.1乳) 「項目が細かいので興味の対象を探しやすくていいと思う」(No.100乳) 「症状の始まりから受診、治療、生活全般に順序立てて構成されているのでわかりやすい」(No.157相)
	【内容への意見】	「状況は日々変化していると思うので新しい方の『語り』も増やしてほしい」(No.59乳) 「乳がんの治療は変化していくので、新しい治療法や薬剤を使った方の語りを聞きたい」(No.90乳)
	【操作への意見】	「地方は都会と違ってパソコンの保有台数も少ない。携帯サイトで気軽に閲覧はできないだろうかと聞かれたことがある」(No.57乳) 「キーワード検索や情報リンクなど、目立つようにした方が良いのでは」(No.8相) 「語りにリンクすると、動画と同時に音声も流れるので、他人に聞かれたくないと思った」(No.29前)
乳がん	【わかりにくい】	「今回あらためてトップページを見て、ここにどんなことが掲載されているか非常にわかりにくいと思いました」(No.8乳)
	【文章が読みづらい】	「インタビュー内容を交互に忠実に字幕にしすぎて、読みづらい。文字にする場合は簡潔にした方が伝わりやすいと思う」(No.89乳)
	【情報が探しにくい】	「順を追っていけるような構成にすると見やすい」(No.5乳)
相談員	【文章が読みづらい】	「画面の字を大きくしてほしい。患者さん、家族に紹介したいのでこの字はよみづらいと思いました」(No.172相)
	【情報が探しにくい】	「全体的に文字がおおいので探しにくかった。インターネットになれた人も慣れていない人もわかりやすい構成になってほしいと思う」(No.37相)

表 12 ウェブページの感想・意見

分類	概念名	具体例(乳=乳がん患者、前=前立腺がん患者、相=相談員)
乳がん患者 前立腺がん患者 の共通概念	【サイト構成とネット環境】	「とてもいい試みですが地味な気がします」 (No.30乳) 「映像は親近感と現実感があり成功だと思います」(No.25前)
	【内容充実への要望】	「まだまだ若年の体験談が少ない」(No.60乳) 「インタビューや掲載をできるだけリアルタイムに継続して行ってほしい」(No.3前)
	【同病者を知ることで得られる効果】	「不安な気持ちを落ち着かせてくれ、前向きな気持ちへと導いてくれました。手術前に利用させていただきました」(No.41乳)
	【体験談が情報として参考になる】	「多くの体験談に手術前の心構えができた」 (No.99乳)、「治療法選択の為の参考資料になる」 (No.40前)
	【体験談を見ることでの不安】	「再発・転移や副作用のことを読むと正直怖くなるが、今後の心構えをするにはとても参考になると思った」(No.67乳) 「がんの告知をされ、非常に不安である。どうしても悪い人の例に自分をダブらせてしまう」(No.8前)
	【体験者のその後が気になる】	「再発や転移があった人の、その後どうなっているかが気になる」(No.42乳)
	【自分と他の患者との比較】	「ただ自分の状態と違うと思った」(No.29乳) 「自分と同じ状況の患者さんを見つけるのが難しかった」(No.44)
その他の 乳がん患者の概念	【ナラティブ情報であることの評価】	「肉声で語っている姿は説得力があり、共感が持てる」(No.90)
	【リアルさが感じられない事に不満】	「無機質な感じ。あくまでも患者をガラスケースに入れた外側から見ている感じ。『作ってやった』的印象」(No.5)
	【運営姿勢への評価】	「ネット情報は信頼できるものはどのくらいあるか不安もある。患者本人の語り+監修が入っているので安心して見られる」(No.59)
その他の 前立腺がん患者の 概念	【物足りない】	「患者自身が立ち上げているブログを見ているので、内容が浅いと思う」(No.48)
	【サイトへの評価】	「代替医療のことが掲載しており、興味がある」 (No.58)
	【利用を進めたい】	「他者にも見るように勧めたいと思います」 (No.13)